



生理(月経)痛について

産婦人科 柳澤 愛実

Q 正常の月経とは

A 周期は25～38日間。ずれても予定日の前後2～5日程度です。精神的なストレスで1週間ぐらいずれることもあります。生理の期間は3～7日間で月経量は20-140mLとされています。生理痛については、いつもの日常生活が送れ、市販の鎮痛薬でやわらぐ程度であるのが正常です。

Q どのような月経痛だと受診したほうがよいですか？

A 月経痛で仕事や学校を休まなくてはならなかったり、だんだんと痛みが増していき市販薬が効かなかったりする場合は月経困難症と診断されます。背景に病気が隠れている場合があるので産婦人科を受診してください。

Q 月経困難症の原因としてはどのようなものがありますか？

A 原因によって月経困難症は「器質性月経困難症」と「機能性月経困難症」の2つのタイプに分かれます。

① 何らかの病気が隠れている「器質性月経困難症」

子宮や卵巣になんらかの病気があるものを「器質性月経困難症」といいます。子宮内膜症や子宮腺筋症、子宮筋腫、クラミジア感染などの病気が原因となり、生理痛が起こる場合もあります。20代後半から多くなり、症状は月経初日～3日目ごろを過ぎても続き、生理期間以外にも痛みが生じることもあります。

② 原因となる病気のない「機能性月経困難症」

子宮の収縮を促す物質「プロスタグランジン」の分泌量が多かったり、子宮や卵巣が未成熟であったり、冷えやストレスが原因とされています。一般的に思春期から20代前半に多いです。

Q どのような検査をしますか？

A 婦人科ではいきなり内診をするということはありません。まず問診を行い、次に子宮や卵巣に異常がないか超音波検査を行います。中高生の方に対しては相談してお腹の上から検査を行うこともできます。そして必要に応じて血液検査を行います。

Q どのような治療方法がありますか？

A 鎮痛剤：痛みの原因物質プロスタグランジンの合成を抑えます。痛くなる前に飲むのがポイントです。

低用量エストロゲン・プロゲスチン製剤(LEP製剤)・プロゲスチン製剤：月経困難症や子宮内膜症が悪化しないように、排卵をおやすみさせます。いずれも排卵を止めてしまうので服用中は妊娠できませんが、中止すると月経は回復し、将来の妊娠に影響は与えません。

漢方薬：機能性月経困難症を効果的に治療できる可能性があります。

産婦人科
月～金

産婦人科外来まで 0267-67-2295 (代表)